



「見たり、聞いたり、探ったり」No.298

通算 No.449

青木 行雄

「アゼルバイジャン共和国」を紹介  
(中央アジア・南コーカサス)

1991年(平成3)にソ連邦から独立し、アゼルバイジャン共和国として歩み始めてから34年の年月が経った。カスピ海沿岸内陸国8ヶ国中、アゼルバイジャンは、中央アジア・コーカサス諸国で大変な親日で裕福な国である。

ある人を介して、ギユルセル・イスマイルザーデ閣下、駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使と親交が出来て進行中である。

(余談だが、この大使は日本酒が大好きで、今年3月22日の「東京めじろ会」に参加すると約束が出来、ご夫妻共にこられる予定。大使は東京の上智大学に入学されていた程の親日家で日本語がうまい。)

中央アジアの独立した国8ヶ国を記して見ると

1. カザフスタン

中央アジア最大の面積(日本の8倍)  
資源大国、石油埋蔵量-世界の1.7%

1. ウズベキスタン

人口は中央アジア最大  
中央アジアの情報センター的存在

1. キルギス

ソ連邦からの独立後いち早く民主化を打ち出した国

1. トルクメニスタン

豊富な天然ガスの埋蔵量は世界第4位で世界の7.2%を占める。

1. タジキスタン

シルクロード交易の中心的役割を担った「ソグド族」の後裔の国である。

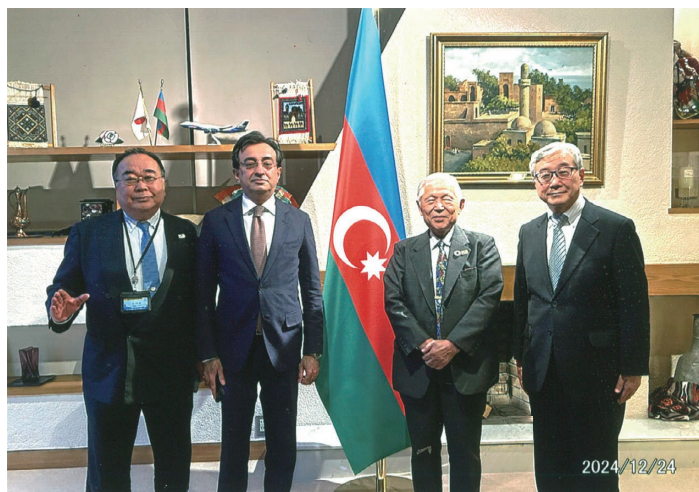
南コーカサス

1. アゼルバイジャン

中央アジア・コーカサス地域ではカザフス



アゼルバイジャン イスマイルザーデ大使  
場所 衆議院第一議員会館 国際会議室



アゼルバイジャン駐日イスマイルザーデ大使(左から2人目)。大使公邸の応接間にて、仲間3人と



中央区ユネスコ協会会議にて

左側 中央アジア・コーカサス研究所 田中哲二所長。中央 アゼルバイジャン イスマイルザーデ大使。

右側 中央区ユネスコ協会 藤掛正史会長

タンに次ぐ産油国だが歴史的にはアゼルバイジャンの方が古い。19世紀にはバクー油田が世界生産の90%以上を占めたことがあるという。

#### 1. ジョージア(前グルジア)

世界遺産が多く、観光立国、主な産業は農業で、グルジアワインは国際ブランド。

#### 1. アルメニア

主な産業は農業、宝石加工(ダイヤモンド)

以上の8ヶ国でした。

ギョルセル・イスマイルザーデ アゼルバイジャン共和国特命全権大使より、中央区ユネスコ協会へメッセージを頂いたので要約し記した。(青木会員 中央ユネスコ協会)

「アゼルバイジャン共和国はカスピ海の西海岸に面してユーラシア大陸の中心に位置している。昨年

(2024年)、アゼルバイジャンは独立国家として33年をむかえた。イスラム世界における最初の民主的な共和国として1918年(大正7)にアゼルバイジャン民主主義共和国を設立し、イスラム世界で女性達が選挙権を持つようになった最初の国でした。

1991年(平成3)に再び独立国家として歩み始めたアゼルバイジャンは国家指導者ヘイダル・アリエフとアゼルバイジャン大統領イルハム・アリエフの先見の明るいリーダーシップの下、輝かしい国として繁栄してきた。アゼルバイジャン経済は力強い成長と自信を示し、過去20年間で3倍に成長した。強力な社会経済インフラが確立され、貧困は2003年(平成15)の50%から現在の5%まで大幅に減少した。2024年(令和6)の第1四半期だけでも、国内総生産は5%増加し、非石油部門では12%増加した。アゼルバイジャンは投資側の国家となり、大規模な地域プロジェクトで主導的役割を果たすと同時に、世界のエネルギー安全保障においても重要な役割を果たしており、ユーラシアにおける信頼できる中継国でもある。

さらに、世界の交通拠点としてのアゼルバイジャンの戦略的地位は、その重要性を高めている。アゼルバイジャンは地域のおよび地域間交流の両方を提唱し、交通インフラの拡大と開発を積極的に推進していく。

2024年11月11日から、アゼルバイジャン共和国はバクーで国連気候変動会議(COP29)を主催している。わが国では2024年を「緑の世界連帯の年」と宣言した。これは、環境保護と気候変動対策に対する国の取り組みを示している。アゼルバイジャンは環境の持続可能性に深く取り組んでおり、両生可能エネルギー源に多額の投資を行っている。

アゼルバイジャン政府は、2030年(令和12)までに両生可能エネルギーの割合を国のエネルギーバランスの30%までに増やし、太陽光、風力、水力発電による約5,000メガワットの再生可能エネルギーを創出することを目指している。

日本は:1991年(平成3)12月28日にアゼルバイジャン共和国の独立を最初に承認した国の1つである。両国間の外交関係は1992年(平成4)9月7日に確立された。

以来、日本とアゼルバイジャンは強力な政治的関係を構築する重要な二国間関係を達成してきた。」

駐日アゼルバイジャン大使より

※2024年12月25日、アゼルバイジャン航空の旅客機エンブラエル190が中央アジア・カザフスタン西部で墜落し38人が死亡、ニュースで確認した。

26日すぐに駐日大使にショートメールにてお見舞いのメールを送信したら、大変丁寧な返事が返ってきた。紹介者を通して、今後交流を続け、双方のお役に少しでも立てればと思っている。

## 参考資料

中央ユーラシア総合調査会 会長

中央アジア・コーカサス研究所 所長 の記事

田中哲二 様

イスマイルザーデ特命大使記事

2025年1月19日記